



気候変動と気候正義

Climate Change and Climate Justice

永田先生による気候変動の授業 (2019)

昨年の創立50周年に掲げた重点エリアのひとつは「気候正義と気候変動対策」。気候正義とは。そして、アジア学院がこの地球全体の課題に対して持つ意義は何でしょうか。

アジア学院での気候変動教育 永田佳之

聖心女子大学教授
アジア学院理事

アジア学院で気候変動の授業をはじめ、10年近くになる。当初は気候変動と言ってもピンと来ない学生が多かった。ところがここ数年で、気候変動のもたらす被害をどの国の学生も身をもって体験するほどに地球温暖化は深刻化した。教室で「気候変動を体験したことがある人はいますか?」と尋ねると、多くの学生が具体的な体験を語りだす。早ばつや大雨による地滑り、デング熱など疫病の蔓延、バッタ襲来による穀物被害などである。

学生の大半は気候変動に対して脆弱な国の出身である。不作による引越や疫病による致死など、彼らが目の当たりにした被害の度合いも尋常ではない。こうした事態を引き起こしているのは、都会で豊かさを享受してきた私たち先進国の人間なのである。

学生たちと授業で接するうちに授業内容は自ずと気候正義(Climate Justice)を重視する内容になっていった。気候正義は、主に先進諸国が化石燃料を大量に消費するような生活を正すべきという主張として国連会議や市民デモで用いられる概念だ。世界人口

の1割に当たる富裕層が個人消費による温室効果ガスの半分ほどを排出していると言われる昨今、気候変動は正義に関わる世界共通の問題なのである。

この構造的な暴力を前にした途上国の人々の心持ちは複雑である。大量生産・消費とは程遠い生活をしている人々にも容赦なく襲いかかる気候変動は実に割りに合わない話なのだ。さらに学生たちは罪を背負ってしまった現代世代の指導者であり、帰国後に若い世代に希望をもたらず役割が期待されているリーダーだ。

深刻化する地球規模課題に対して力不足の筆者が見出した苦肉の策は授業で「気候変動詩」*を創ってもらうことである。気候変動に関する詩作を通して正答のない問いを皆で共有する過程で希望が紡がれていく。結局、情けないことに先進国で教えている講師の方が学生の力強い言葉や精神の発露に力づけられるばかりなのである。

*具体的な詩作の例は、次の論考を参照されたい。
大柳由紀子・神田和可子・永田佳之「アジア学院における気候変動教育―価値観・行動・ライフスタイルの変容に向けた試み」『Quodo...H(1)H(1)H(1)H(1)』Vol.4

気候変動に立ち向かう農業者たち

食べものを生産することは気候の変化に最も左右される営みともいえます。アジア学院の農場、そして日本国内で農業に取り組む卒業生、元職員、見学先の皆さんに、気候変動の現状や取り組みを聞きました。



⑨ 山口 敦史 岡山県美作市

- ① ほんのほのハウス農場代表、元アジア学院職員
- ② 10年に一度と言われる台風、大雪、ゲリラ豪雨が毎年のように来て、農作物が被害を受ける。
- ③ 自然への畏怖、仲間への感謝、先祖・未来の子ども達への平安の祈りを込めて、農場から祈りの能の開催。また、「お山の学校」で、持続可能な農業を生業として生き抜く若者の育成をしています。



⑩ 大澤 菜穂子 (写真左) 熊本県水俣市

- ① からたち (研修見学先)
- ② 温暖化の影響かカメムシの大発生で、無農薬での温州みかん栽培が難しくなってきました。
- ③ 暖かくなってきた気候を生かし、

③ 中村 満 京都府京田辺市

- ① 農家、NPO 木野環境、元アジア学院職員
- ② 梅雨明けからの盛夏は日差しが強烈、気温も熾烈。仕事ができるのは午前中のみ。体がもたない。本当に危険。
- ③ 体が資本なので、無理しない。追い込まない。一生懸命やらない。肉体的精神的魂的に余裕がないと持続不可能になってしまうと感じます。それくらい夏の「熱さ」が厳しいです。

熊本県水俣
37.7℃
8月20日

岡山県今岡
37.7℃
8月3日

京都府京田辺
39.0℃
8月6日

三重県上野
37.6℃
8月14日

埼玉県鳩山
39.9℃
7月29日

栃木県大田原
37.2℃
7月22日

栃木県那須烏山
36.7℃
7月22日

山形県新庄
35.8℃
8月23日

山形県高島
35.3℃
8月23日

北海道岩見沢
34.8℃
8月12日

質問

- ① 所属、肩書
- ② 近年、農業をされる中で気候変動の影響を感じますか。どんなところで感じますか。
- ③ 持続可能な農業のための工夫を、一つだけ教えてください。

② 山形県戸沢村 (研修見学先)

長年にわたり夏の研修を受け入れてくださっている山形県戸沢村は、7月25日の豪雨で大きな被害を受けました。川の氾濫、床上浸水、道路の寸断など、いまだ復旧は終わっていません。気候変動による災害の一つです。

(大柳由紀子：副校長、教務)

③ 渡部 美佐子 山形県高島町

- ① 有機農家 (研修見学先)
- ② (7月25日の山形県豪雨直後のメッセージのやりとり) 夜中の1時ごろに、とんでもない雷で飛び起きましたが、幸い(豪雨での)大きな被害はありませんでした。地球が怒っています。私もいろいろと、反省しなきゃと日々思います。
- ★ 渡部美佐子さんは、1974年から有機農業を続けています。ずっと地球にいいことを続けてきた彼女ですが、それでも自らを振り返る謙虚さに学びました。

(大柳由紀子)

⑦ 小山 萌愛 (写真左) 三重県伊賀市

- ① ぐるり農園、'09 アジア学院卒業生、'10 研究科生
- ② 雨が少ない場合、これまで畑では撒水する事はなかったが、近年厳しくなってきた。
- ③ 自然や人との直接的なつながりを大切にすること。特に人とのつながりは、マルシェでの販売や交流、野菜セットのお届けなど。

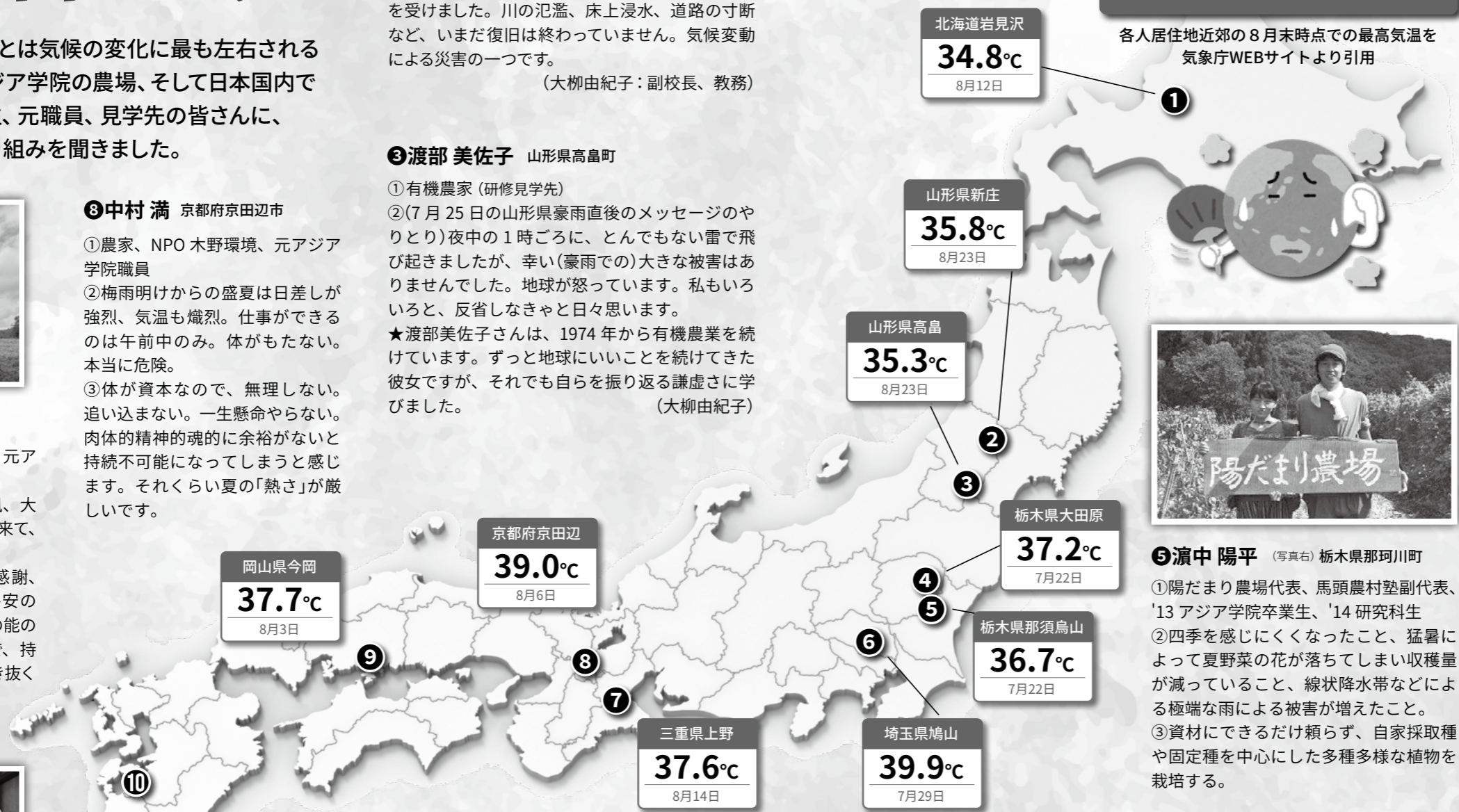


① 小林 薫 北海道岩見沢市

- ① ガーデナー見習い&夫とワインぶどう農家として独立準備中、'18 アジア学院卒業生、'19 研究科生
- ② 梅雨のなかった北海道で雨が増え、夏は異常な暑さが続いている。ガーデンの開花は2週間近く、ぶどうの収穫は1週間近く早まり、高温多湿で病気も出やすくなった。
- ③ これまで北海道の冷涼な気候を生かし栽培してきた品種が不調になることが予想されるため、気候変動に対応できる品種選びが重要になると感じている。

今年の各地の最高気温

各人居住地近郊の8月末時点での最高気温を気象庁WEBサイトより引用



⑤ 濱中 陽平 (写真右) 栃木県那珂川町

- ① 陽だまり農場代表、馬頭農村塾副代表、'13 アジア学院卒業生、'14 研究科生
- ② 四季を感じにくくなったこと、猛暑によって夏野菜の花が落ちてしまい収穫量が減っていること、線状降水帯などによる極端な雨による被害が増えたこと。
- ③ 資材にできるだけ頼らず、自家採取種や固定種を中心にした多種多様な植物を栽培する。



⑥ 桑原 衛 埼玉県小川町

- ① ぶくぶく農園 (研修見学先)
- ② 昨年の夏大豆は異常な高温乾燥のため辺り一帯で凶作となった。我が家でも80アール作付けて収量が100kg程度という驚きの減収。開花までは理想的な生育だったのでギャップに愕然とした。大豆もさぞかし辛かったことだろう。
- ③ 病害虫を出さないために、元肥を使わず、生育に合わせてバイオガス液肥の追肥で栽培している。結果として寒冷紗やマルチなどの被覆資材を使わずに済んでいる。



④ アジア学院 栃木県那須塩原市

とめどなく溢れる大粒の汗を流しながら、厳しい暑さの中、私たちは日々農作業に励んでいます。日光と学生の愛情をたくさん浴びた畑の夏野菜は今年も豊作となり、私たちの食卓を豊かにしてくれました。しかし、気候変動の存在を考えずには農業はできないことを改めて痛感した夏もありました。局地的に降る豪雨や日照り続きは、時として作物に大きな影響を与えます。8月から始めたニンジンの播種作業では、一粒一粒丁寧に播種するも強い雨に流されたり、逆に雨不足から水やりに追われたりと、極端な天候に翻弄されました。

農業は自然への理解と調和があって初めて成り立ちます。そのため、これからも十分な食料生産を行っていくためには、持続可能な農業のあり方を考えていかなければなりません。その一つとして、数年前から「サンライズファーム」を実践しています。真夏の午後の農作業を中止し、代わりに涼しさの残る早朝5時から、日の出と共にボランティアの皆さんと農作業をしました。また今年から、つる性の作物に使用するプラスチックネットの代替として、地域資源である竹を使用したネットを導入しました。竹の収穫から編み込みまで、全てを手作業で行うことには労力を要しましたが、学生それぞれが知恵を分かち合いながら協力して一つのものを作り上げていく姿は、輝きに満ち溢れ、お互いの絆が深まった経験にもなりました。

多様性のあるアジア学院は、困難に対してそれぞれが創意工夫をし、前向きに乗り越えることのできるコミュニティであるといえます。今後もしなやかな強さを持って、気候変動時代の生き方を考えていきたいと思っています。

(岡田 英里：フードライフ課)



Jonas Pombili Ndeuludila

ジョナス・ポムビリ・ンデウルディラ

ナミブ砂漠環境教育基金 (NaDEET) / 運営管理者
Namib Desert Environmental Education Trust / Operations Manager

ジョナ
Jonah



「地域資源を活用した家庭菜園の普及活動を通して、気候変動対策にも取り組む決意です」

アジア学院初のナミビア人学生であるジョナは、すでに地域外でも農村指導者としての名を馳せています。

彼は故郷で、ナミブ砂漠環境教育基金 (NaDEET) の運営管理者として働いています。水不足、砂嵐、昆虫の襲来などの気候変動の影響が祖国に試練をもたらす中、ジョナはNaDEETでの立場を利用して、人々に情報を提供し、新たな常態に適応するために必要な手段を身につかせようとしています。NaDEETは、気候正義と気候変動対策に焦点を当て、個人と地域が行うことのできる実践的な対策を中心に、資源の責任ある消費と食料主権を重視しています。

ジョナは団体のいくつかの取り組みにおいて重要な役割を果たしてきました。その一つが、女性や少女たちにソーラークッカー (太陽熱調理器) の使い方を教えることです。ナミビアの農村部では、料

理をするために薪を集めるのは少女たちの仕事である場合がほとんどです。ソーラークッカーがあれば、少女たちはその時間に学校に通うことができ、個人がもたらす環境への影響も変化させることができます。

もう一つの取り組みは施設が管理する菜園です。団体が家庭菜園の作り方を実演することで、家庭に健康的な食料を提供し、輸入食品への依存からの解放を目指しています。この取り組みは気候変動の影響により困難に直面していますが、ジョナはアジア学院で身につけた新しい技術を活かして、他の人々も実践できるような気候変動に強い菜園のモデルを作ることを計画しています。

ジョナがアジア学院に興味を持った理由はたくさんありますが、応募を決定づけた最も重要な要素の一つが、学院が地域資源の活用を重視しているということ



翻訳

阿部 真希子
募金・国内事業課補佐



文

クロイ・ソリデイ
ボランティア

でした。アジア学院はNaDEETと同様、日常生活における責任ある消費の重要性について説いています。地元でとれた食物を食べ、地元で作られた製品を購入すれば、輸送にかかる二酸化炭素の排出量を削減し、持続可能な生き方を実現することができます。

アジア学院で4ヵ月を過ごしたジョナは、ボカシ肥作りや堆肥の改良といった有機農業技術を習得してきました。12月に帰国した後は、団体が管理する菜園で、これらの技術を活用することを楽しみにしています。そして何よりも、アジア学院で身につけた技術を自分の地域に伝えることで、気候正義が存在する持続可能な未来を自分たちの手で切り開いていけるように願っています。



La Thi Nguyen

ラー・ティ・ングイン

メコン・オーガニック / 農業ボランティア
Mekong Organics / Agriculture Volunteer

ラー
La



VOICE

アジア学院
の住民たち

今年のアジア学院の学生の中で、ベトナムとナミビアでそれぞれ環境問題に取り組む二人の活動と学びを紹介します。

「エコロジーへの理解が深まったことで、エコビレッジのビジョンが明確になりました」

ラーの持続可能な生活へのひたむきさは、彼女が故郷の人々と取り組んでいる日々の仕事にも表れています。約30世帯からなるコミュニティは、約50ヘクタールの農地と森林を管理し、一人ひとりが持続可能な生活を送れるよう共に努力しています。メンバーたちは自然と調和したアグロフォレストリー (森林農業) を実践し、土壌と水源を守るため、農業においてのみならず、歯磨き粉、シャンプー、シャワージェルといった日常生活での化学物質の使用も控えています。

ラーは、アジア学院でエコロジーの概念をより深く理解したことで、エコビレッジを作りたいという願望を更に強めています。すでに、有機農業から気候変動まで、授業で扱われた様々なトピックを通して、生態系を守り、活用し、調和して生きるための知識を得て、これを親しみを込めて、全ての生き物が共に住む家、

「エコベース」と呼びます。

ラーはまた、生態系における全ての生き物の相互関係を理解し、エコロジーの技術と考え方を広げてきました。それぞれの生き物が直面している問題は孤立したものではなく、共通の責任があると考え、同じ空気を吸っているように、全ての生き物は関連し、つながっていると言います。

彼女は今、より地域に根ざした考えを持ち始めています。温室効果ガスを大量に発生させて都市部に生産物を送る代わりに、どうすれば自分たちのエコビレッジが、より広く地域のニーズを満たすことができるか。主食であるお米やトウモロコシを、周囲の地域で十分に栽培することは可能か。外から買うことなく、もみ殻や稲わらなどの畑への投入資材を生み出すにはどうしたらいいのか、と思索をめぐらせています。



翻訳

阿部 真希子
募金・国内事業課補佐



文

カシー・フローディ
学生募集

エコロジーを理解することが、なぜ彼女のコミュニティにとって不可欠なのでしょう。それは、エコロジーを理解することで、エコベースである地球から採取する資源の利用を減らし、二酸化炭素排出量を削減できると考えるからです。

エコロジーを念頭に置き、彼女はこんな未来を想像しています。人々が米作りを始め、肥料を作り、地元の市場で生産物売り、子どもたちに教え、互いに学び合う未来を。





ホストファミリーの皆さんと

5年ぶり 東京ホームステイ プログラム

アジア学院の学生たちの中には、来日前は日本にはいなくても田畑など存在しないと信じている人もいます。だからいざ学院に到着すると「ここは日本じゃない」とがっかりすることもしばしば。「では、日本を経験してもらおう」と創立当初から続けているのが、日本基督教団婦人会の世界教会運動委員会が主催する首都圏でのホームステイプログラムです。

コロナ禍で残念ながら中断していましたが、今年6月、実に5年ぶりに再開することができました。以前の2泊から1泊となったものの、学生たちは大喜び。東京早稲田のキリスト教会館で開会プログラムを終えた後、学生たちはそれぞれのホームステイ先へと分かれていきました。

帰ってきた後、涙ながらに別れを惜しむホストファミリー。学院に戻ってから「うちの家族が一番だった」「オレなんて4回も電車を乗り換えたぞ、いいだろう?」と自慢しあう学生たち。そんな姿を見て、また来年も続けていこうと思いを新たにしました。



大柳 由紀子
教務・副校長

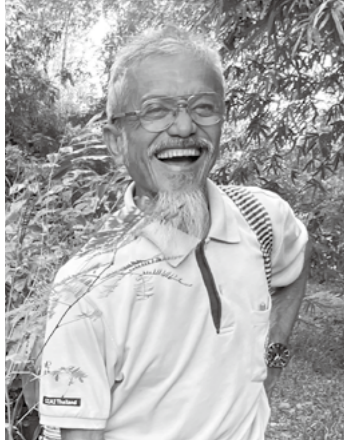
虐げられた農民のために闘った タイの農村指導者が逝去

1989年の卒業生バムルン氏が、6月24日に亡くなりました。彼は、1951年に貧しい農民の子として生まれましたが、本人の努力と両親の支えで、村でもただ一人、都会の工業専門学校で学び、バンコク近郊の大企業で技術者としての仕事を始めました。しかし、労働組合の委員長に選ばれたことで各地の農村を訪問するようになり、農村問題に目覚めたのです。その為、親の期待を裏切っても故郷に戻る決心をし、会社を退職し農業に取り組みました。次第に地域からも篤農家として認められるまでにな

り、10年後にカラシン県養豚組合長に選ばれました。その後アジア学院に入学し、程なくして山形県の置賜百姓交流会の菅野芳秀氏が学院を訪ねられ、長井市で計画していた国際百姓会議にバムルン氏をタイの農民代表として招きました。これを通して、学院と置賜地域の農民達との交流が深まりました。

を何次にもわたって組織し、要求の実現を政府に迫りました。94年に結成された「貧民連合」でも、リーダーの一人として首相官邸前で一年以上に及ぶ座り込みを敢行、国家農業基本法の策定に農民代表の参与を認めさせ、小農・貧農に打撃を与える東北タイの開発計画を断念させました。

4、5年前、久しぶりに彼を訪ねた折に、黙々と野菜・樹木の苗等の世話をしていた彼の農民としての姿を今でも思い出します。タイの農村社会、そしてアジア学院のプログラムにも多大な影響を与えたバムルン氏に感謝します。



バムルン・カヨタ
1951 - 2024 (享年 73歳)



長嶋 清
元アジア学院職員



寄付者御芳名

(敬称略・順不同)

集計期間

2024年7月1日～31日

ご支援に心より
感謝いたします!

サポーター寄付・
一般寄付・
50周年記念
特別寄付

【北海道】三橋修【青森県】木村幸子【山形県】富樫俊悦
【福島県】大島正太郎 杉原義雄【茨城県】小幡幸和 本田香織
(教) 北海道教会【栃木県】鮎瀬征夫 荒川朋子 飯島恵子
飯塚仁美 大谷雅代 大森貴子 大柳由紀子 小倉一郎・恭子
川上聖子 吉川宗芳 木村裕子 小山博子 坂入貴子 沢谷千亜紀
高見信子 武智明美 田中淳子 野田光子 林真智子 羽山弘一
羽山信輝 McCurley 里美 松田一彦 岡岡明子 八木沢淳
(教) 足利東教会(教) 宇都宮東伝道所(学) さつき幼稚園(教) 西那須野教会
(教) 矢板教会【群馬県】亀田璋子 白井真澄(教) 鳥村教会【埼玉県】浮貝由美 武真人
千村雅信 三村美穂【千葉県】天野潤 佐久間健 佐藤伊一郎 関俣子 山本栄子
【東京都】粟谷しのぶ 岩切勉 ウィリアムズ 郁子 柄澤真理子 川原正言 岸まち子
楠田修司 久世陽子 黒田俊介 功能聡子 小林元子 佐柳信男 澤田祥子 高野美恵子
竹野裕子 賢川治樹 西秀樹 平岡昭子 麗治夫 松田浩道 松本いく子 森哲也 山口俊夫
横手靖彦 渡邊友香(教) 牛込弘方町教会 国際基督教大学教会(公) 聖オルバン教会
(パ同) 日本バプテスト同盟 全国女性会【神奈川県】浅野康一 荒井明子 今川信夫
岩澤裕基 梅澤昌子 尾崎久美 笠置正民 鈴木良子 中島菜々子 中本尚孝 本田忠行
松島直子【新潟県】荒井真理【山梨県】小西貴士【長野県】青木栄作【岐阜県】河本紀子
【静岡県】武井陽一 山下清二【愛知県】大数かつみ 塚田昇【滋賀県】秀熊ともよ
【京都府】上田祐未 櫻井鋭子(特活) 木野環境【大阪府】大本和子 高見信彦
【兵庫県】黒田喜久子 森宗秀敏【福岡県】荒川彰【沖縄県】小笠原春野
【海外】アジア学院北米後援会(AFARI) アメリカ福音ルーテル教会 カナダ合同教会

寄付金 7月合計 7,870,719 円

寄付金がアジア学院に入金された日に基づき掲載しております。
入金日は、口座振替の場合はご決済の1ヶ月後、クレジットカードの場合は
2ヶ月後です。

書き損じハガキ

一品寄付

【栃木県】橋場久美子 一戸茂子 塚本美砂子(株)小堀建設
【埼玉県】細川敦子【千葉県】千葉友の会
【東京都】菊池あゆみ・泰子【京都府】井村千鶴子
【大阪府】相原正温

【山形県】渡部 務・美佐子 原田 俊二・加矢乃
【栃木県】早川幸子 土屋郁子 木村歩美 戸丸紀幸 君島学
小山まり 若松実沙 菊池創・ふじ 塚勝男 齊藤綾子 設楽享良
前波真一 樋口祐美子 堀内紀江 弓座玲子 森藤美由紀
郷かしこ 釜井加代子 進藤一幸 JagoJay 高林幸江 松澤安夫
大貫啓子 伊藤順子 畑旭彦 鎮海鄭 菊池紀子 小泉 信三 宇都宮友の会(有)たかの
(教) 四條町教会【埼玉県】細川武・敦子 榊澤幸雄【東京都】永尾朋子 福嶋美佐子
木村はるみ 三浦孝枝 菊池泰子・あゆみ 平岡昭子 山田貴司(株) オルター・トレード・ジャ
パン(パ同) 日本バプテスト同盟 全国女性会【神奈川県】大社淑子 江坂宏子 平沼隆志
今田多恵【長野県】森田矩子【静岡県】山田修【愛知県】深谷ひろみ【京都府】北代り
千田悦子【兵庫県】日下智行・優佳(株) 小嶋ミナト電機(機) 小山雄太郎

(医) 医療法人 (医社) 医療法人社団(学) 学校法人(カ) カトリック(株) 株式会社
(教) 日本基督教団(キ) 日本キリスト教会(公) 日本聖公会(公財) 公益財団法人
(公社) 公益社団法人(財) 財団法人(社) 社団法人(宗) 宗教法人(特活) 特定非営利活動法人
(パ同) 日本バプテスト同盟(福ル) 日本福音ルーテル教会(有) 有限会社

寄付金領収書について

口座振替・クレジットカードでご寄付頂いた場合、所得税法により領収書の発行及び領収日は、アジア学院に入金された日とさせていただきます。

新連載! 食べものといのちを育む、アジア学院の日常をお伝えしていきます。

フードライフなひとコマ

“No Potato, No Life” ～ ジャガイモのある生活に感謝

7月初めにジャガイモの収穫がありました。去年収穫した分を食べつくし、かれこれ2か月間「ポテトなし生活」を送っていたアジア学院のメンバーには、待望のイモとの再会でした。(他の食材は十分にあったので食料が足りなかったわけではありません)

料理をする人達には、たくさん使えるからといって一回の食事の内容全部をイモ料理にするのはやめてね、と伝えていますが、収穫の日以来必ずといっていいほど毎食ジャガイモが登場しています。一緒に食事をしていた訪問者から「なんでこんなにジャガイモが出るんですか?」と聞かれて初めて、私たちはたくさんジャガイモを食べていることに気づきました。でもそれは収穫した喜びがそのまま食卓に表れているからだと思えます。



金森 郁美
フードライフ課 (FEAST)



BULLETIN BOARD
事務局よりお知らせ



第52回

収穫感謝の日

Harvest Thanksgiving Celebration



HTC 2024

2024年度の
ロゴ&テーマ
「今日の働き 明日の糧」

Time Table 10:00~15:30

- 10:00 開場
- 10:15 収穫感謝礼拝
- 11:45 バザーオープン
- 12:00 お食事コーナー、ステージパフォーマンス、交流・体験コーナーオープン
- 15:15 閉会セレモニー
- 15:30 閉会

駐車場

@ 槻沢小学校
会場へは巡回バスをご利用いただけます。

毎年恒例、豊かな収穫に感謝するアジア学院最大のイベント。多国籍の料理、多文化のステージや体験コーナーで皆様をおもてなしします。

駅⇄会場 送迎バス

- <行き> 那須塩原駅西口(バスロータリー) 発 9:45
- <帰り> 那須塩原駅行き アジア学院 発 15:45, 16:30

クリスマス献金に願いを託して

毎年クリスマスの時期に皆様をお願いしている特別献金は、人々のために働くことを願う草の根のリーダーを今後も迎え入れ、「仕えるリーダー」として育成するための重要な財源となります。皆様の教会や学校で集めるクリスマス献金に、アジア学院に対する皆様の願いと希望を託してください！

お振込先

- 足利銀行**
西那須野支店
口座番号(普通) 0112403
口座名義 学校法人 アジア学院
- ゆうちょ銀行**
記号 10700
番号 8002711
口座名義 学校法人アジア学院
または「アジアの土」に同封の払込取扱票より



1月25日(土) アジア学院フレンズデー

— サポーターの集い × フレンズマルシェ —
オープンキャンパスと同時開催！

アジア学院での学びについて卒業生の話を聞く「サポーターの集い」、そしてアジア学院の卒業生や関連団体が出店する「フレンズマルシェ」。皆様のお越しをお待ちしております！詳細は次号にて。

新職員紹介



ニコラス・タフヤン
愛称：ニック
'08卒、'15 研究科生
フィリピン出身
農場担当

「アジア学院や自分のコミュニティで得た知識、そしてサーバントリーダーとして人々と働いてきた経験を活かして、良き働き手になりたいと思います。」

重要 ご寄付のお礼状・領収書発行時期を変更します

10月1日からの郵便料金値上げに伴い、お礼状兼領収書発行の時期を以下のとおりにさせていただきます。書き損じはがきの寄付も含まれます。

▶ **1月1日~12月31日までの寄付：1年分をまとめて翌年1月末発行**
※本年9月1日以降の寄付より適用となります。

早めに領収書を必要とされる方は、その都度その旨を、支援者サポート係へメール(support@ari.ac.jp)または振込用紙通信欄などでお知らせください。

住所・連絡先の変更はありませんか？

☆メールアドレスをご登録ください

住所や電話番号が変わった方、メールアドレスのご登録がお済みでない方は、支援者サポート係へメール(左記)または振込用紙通信欄などでお知らせください。

メールではアジア学院からのご連絡の他、年明けを待たずにご寄付の受領確認メール(領収書ではありません)をお受け取りいただけます。

